

1 学校教育目標

- 心豊かで思いやりのある子ども
- 自ら進んで考え、工夫する子ども
- 健康でねばり強い子ども
- たがいに協力し、進んで実行する子ども

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	確かな学力と豊かな心、健やかな体を本気で育てる学校 ○学力を定着させる学校 ○豊かな人間性をはぐくむ学校 ○体力・運動能力を高める学校 ○家庭・地域が協力し合う学校 ○組織的に教育活動を展開する学校
○児童・生徒像	○心豊かで思いやりのある子ども（あいさつをきちんとし、誰に対してもやさしく思いやりのある子） ○自ら進んで考え、工夫する子ども（自ら考え、自ら学ぶ意欲を身につける子） ○健康でねばり強い子ども（健康で、我慢強く最後までやりとげる子） ○たがいに協力し、進んで実行する子ども（自分で考え自分で判断し自分で行動し責任をとることができる子）
○教師像	○プロ意識をもち、教育活動を生き甲斐と感ずる教師 ○子どもと共に自ら伸びようと努力し続ける教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 児童について
明るく素直で活発な児童が多い。肯定的な指導を行うことで、朝会や集会などでの集団行動時の規律が向上している。低学年での指導を手厚くすることで、学習規律や生活規律が整った学年・学級の構築が図れてきている。さらに多様な教育活動を通して、心を育て自己肯定感を高めること、自立させるための習慣化が課題である。
- 教職員について
教職員全員で知恵を出し合い、学校経営、学年経営の視点で具体策をもって仕事を遂行していく体制が確立された。ベテランから若手までの全員が本校の諸課題について強い危機意識と改善意欲をもって「心は一つ」を合言葉に解決している。今年度も本校独自のOJT制度や主任教諭研修制度を活用しながら若手教員からベテランまでそれぞれの力量に見合った人材育成を行っていく。
- 家庭・地域について
学校全体の学習の場としての落ち着きや日常の教育活動の様子から学校への信頼関係が着実に深まってきている。さらに家庭に学校教育への理解と家庭で為すべきことへの協力を求めていく。PTA活動は、学校に愛情をもって協力する姿があった。よい校風が継続するように感謝の気持ちをもって連携していく。地域は、学校の成果を評価し、学校への応援を惜しまない。

【前年度の成果と課題】

重点的な取組事項－1 学力向上

- 数値目標 平成31年4月区学習定着度調査 区平均通過率 80.6%
- 実施結果 平成31年4月区学習定着度調査 花保小通過率 84.3% (令和元年度)

目標数値を上回ることができた。8年連続平均通過率を向上させ、5年連続区の平均通過率を上回った。これは担任、専科教員、特別支援教室教員、日本語指導教員、時間講師、そだち指導員、学習支援員等の全教員が真摯な努力を積み上げてきたこと、そして多くの手立てを共通に実施してきたことの相乗効果である。具体的には、SP表と個票の分析及び個別対策の時間を学年会に位置づけた。管理職と学年とのデータに基づく学力分析・対策会議及び面接を定期的に

実施し、児童個々に対する分析と方策を練らせた。1月には、上学年担任が下学年担任に向けて「進級をふまえて今やるべきこと」連携学年会議を実施した。また、実際に授業の充実を図りながら、中休み、給食準備中、放課後等あらゆる時間を利用して既習事項の個別指導を行った。さらに管理職も全学年実施の漢字検定の採点や表彰、九九免許更新試験等で基礎・基本の習熟を徹底的に図った。「九九検定」については真に身に付けさせるために、学力向上委員長が中心となって新免許制度（ゴールド免許と普通免許）で実施した。希望者には「漢字検定」「数学検定」も実施した。本校の教職員は同僚性に優れ、共通行動がとれる教員集団である。令和2年度も数値の向上を図るが、教員の学力向上への意識と共通行動、各教員の技量等、後進の人材育成が課題となる。また、個別指導の時間の確保も課題となる。

重点的な取組事項－2 保育園・幼稚園・中学校との連携

○達成目標

- ・保育園・幼稚園・中学校と連携を密にし、入学時・卒業時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。
- ・花保中学校と小中連携教育を進め学力向上を図る。

○実施結果

保育園・幼稚園との連携

- ・連携保育園で、「鉛筆の持ち方」「姿勢保持」「学校生活の流れ」等の指導を小学校の教員が行い、園児は学ぶ楽しさを体験できた。また、保育園保護者会で校長が講話を行い、入学前の不安を払拭するとともに、小学校教育について理解を図った。職員交流研修は新たに私立幼稚園とも実施することができた。
- ・本年度、幼保小連携ブロック代表校として、ブロック全体の幼保小連携を推進できた。
- ・小学校での給食体験、図書室での読書体験、水泳指導や音楽会の見学、交流遊び等によって小学校進学への期待感を高められた。

花保中学校との連携

平成23年度からの足立区小中連携モデル校の取組みを継続して実施することができた。中学校は問題解決型の授業を目指し、努力し大きく授業改善されている。ただ、中学校の2、3年生の区学力定着度調査での成果が表れていないことが課題である。

重点的な取組事項－3 教師の指導力向上

○数値目標 管理職の授業評価 全員B以上

○実施結果 管理職の授業評価 全員B以上達成

2年間教科研究を休止し、「リーダーインミー」に特化して研究を行ってきた。しかしそれまでに研究を深めてきた「算数」では、児童の自力解決を大事にした問題解決型授業展開、「国語」では、言語活動の指導法が継承されている。ベテランから若手までの全員が本校の学習における課題について強い危機意識をもって、自己の授業力の改善を図れた。授業改善には足立区教科指導専門員の継続的な指導も効果があった。次年度もOJTも含めて継続していく。

重点的な取組事項－4 心の教育の充実

○数値目標 学校評価項目 道徳授業の充実 90% 明るく楽しい学校 95%

○実施結果 学校評価項目 道徳授業の充実 96% 明るく楽しい学校 98%

一人一人が自分自身のリーダーになり、自信をもって、実りある充実した人生を送れるようにするために、「リーダーインミー」を心の教育の柱として推進した。また、Q U調査を年2回実施し、学級全体と児童個々の状況や学級内の対人関係をデータによって明確に把握した。管理職と学年とのデータに基づくミーティングを定期的にも実施し、児童個々に対する方策を練らせた。データに基づく声かけや励まし等で、児童の自己肯定感が高まってきている。心を豊かに育てるために、道徳授業を充実させただけでなく、城北特別支援学校小学部との交流、環境カルタ、百人一首、無言清掃などの取組を行った。朝のあいさつ運動には開かれた学校づくり協議会委員も定期的に参加した。全校朝礼で多くの表彰を実施し、児童の活躍を認め、結果を賞賛することで温かな学校風土の確立に努力した。サンクスウィークスでの家庭の協力や児童相互の認め合いも効果があった。また、東京オリンピック・パラリンピックのエジュケーションアワード校として東京都教育委員会から指定し活動した。区のオリンピック・パラリンピックに向けたオレンジプロジェクトの拠点校としてオランダ選手とも交流した。選手との交流や競技体験で、スポーツを通した「共生社会」について学ぶことができた。令和2年度もそれぞれの手立てがマンネリにならないように効果検証をしながら、一層の心の教育を推進する。

4 重点的な取組事項						
番号	内容	実施期間				
		H30	H31 (R1)	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	保育園・幼稚園・中学校との連携	○	○	○	○	○
3	教師の指導力向上	○	○	○	○	○
4	心の教育の充実	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題				達成度 ◎○△●	
足立区平均通過率と同水準を達成する。		80.6% (令和元年度区平均) 年度末90%							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 改善	朝学習 (パワーアップタイム)	全児童 国語 算数	毎週水 (漢字) 毎週木 (算数)	【指導者体制】担任 【取り組みのねらい・目的】 学習内容の復習・基礎学力の定着 【使用教材】漢字プリント、 東京ベーシック診断シート・ 次へのステップ・その他計算 等のプリント学習 ※開始時刻厳守(放送)	東京ベーシック診断シート、及び次へのステップなどのミニテストを実施。	年度末までに東京ベーシック診断シートで正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%以上の結果。			

2 改善	朝学習 (パワーア ップタイ ム)	全児童 国語	毎週火 (読書)	【指導者体制】担任 【取り組みのねらい・目的】 読書に親しむ。読む力を伸 ばす。月に1回兄弟学級で の読み聞かせ交流を行い、 相手意識をもって本を選 び、読む機会を設ける。 開始時刻厳守(放送)	保護者の学校 評価における 数値向上	全校児童が本に 親しむことによ り、読書を身近 に感じさせる。 (年間の読書量 を増やす。)			
3 継続	花保ステッ プタイム	全児童 国語 算数	毎週水 5校時	【指導者体制】担任・副担任 の専科教員 【取り組みのねらい・目的】 学習内容の復習・基礎学力 の定着 【使用教材】漢字プリント、 東京ベーシック診断シー ト・次へのステップ・その 他計算等のプリント学習	東京ベーシッ ク診断シー ト、及び次へ のステップな どのミニテス トを実施。	年度末までに東 京ベーシック診 断シートで正答 率90%、毎回 のミニテストで 正答率80%以 上の結果。			
4 継続	放課後学習	全学年 国語 算数	週1回	【指導者体制】担任 【取り組みのねらい・目的】 学習内容の復習・基礎学力 の定着が十分でない児童 の個別指導を行う。 【使用教材】漢字プリント、 東京ベーシック診断シー ト・次へのステップ・その 他計算等のプリント学習	東京ベーシッ ク診断シー ト、及び次へ のステップな どのミニテス トを実施。	年度末までに東 京ベーシック診 断シートで正答 率90%、毎回 のミニテストで 正答率80%以 上の結果。			
5 継続	放課後補習	全学年 国語・算 数 学力調査 正答率3 0%以下 の児童	個人面 談期間	【指導者体制】管理職・算数 少人数・専科教員・講師な ど 【取り組みのねらい・目的】 個々に必要な課題を担当 と相談し、プリントなどで 補充指導する。 【使用教材】国語・算数のプ リント学習。	プリントを担 任に見せて、 理解の状況を 伝える。	個々の課題のプ リントで正答率 10ポイント改 善。			

6 継続	夏季チャレンジ教室	全学年 国語・算数 学力調査 正答率50%以下の児童各 学年10名程度	夏季休業日中の10日間	【指導者体制】全教員で分担 【取り組みのねらい・目的】 基礎学力の定着と学力調査結果から分かったつまづきを改善し、学力向上を図る。 【使用教材】個々の課題に合わせたプリント・次へのステップ・学力調査の補充問題・夏休みのドリルなど	夏休み終了後の確認テストを実施。	夏休み終了後の確認テスト正答率10%アップ			
7 改善	夏季自主学習教室	全学年 国語・算数 学力調査 正答率50%以上の児童	夏季休業日中の10日間	【指導者体制】全教員で分担 【取り組みのねらい・目的】 児童一人一人が自分の課題に合わせて学習する時間を確保し、わからないときなどは指導助言する。 【使用教材】次へのステップ・学力調査の補充問題・夏休みのドリル、低学年にはプリントを用意する。その他自分で用意した問題集など	夏休み終了後の確認テストを実施。	夏休み終了後の確認テスト正答率10%アップ			
8 改善	家庭学習	全児童 学年の取組状況により順次実施	毎日	【指導者体制】各学年担任が共通取組と評価 【取り組みのねらい・目的】 4月当初、児童に「家庭学習の手引き」を渡し家庭学習の仕方について指導する。また、保護者会で保護者にも「家庭学習の手引き」を渡し説明して協力を依頼する。	宿題提出状況を担任が記録。	宿題提出率90%目標			
9 改善	そだち指導	対象児童	年2回	【指導者体制】育ち指導員2名 【取り組みのねらい・目的】 児童別の保護者授業参観と個人面談を実施する。授業の様子を知らせ、家庭学習について協力を依頼する。	週案で確認	実施し、保護者に理解を得る。			
10 新規	ICTの活用	全児童	毎日	【指導者体制】全教員 【取り組みのねらい・目的】 児童がICTの使い方やプログラミングの仕組みについて理解できるようにする。また全教員がICTの活用方法を理解し、活用できるようにする。	週案や授業観察で確認	ICTの授業内の活用率90%			

1 1 継続	かけ算九九 検定免許証 制度	2学年以 上の全児 童	12月 ～2月	<p>【指導者体制】検定者は、管理職・算数少人数担当2名・学習支援員1名。指導は、担任と算数少人数担当者。</p> <p>【取り組みのねらい・目的】学習の基礎となる九九を習得させるために100秒以内で暗唱させる。各学年2週間のうちに検定を受ける。ゴールド免許証は、1回での合格者に発行し、翌年度まで有効。普通免許証は、翌9月まで1ヶ月ごとにチェックし更新させ、完璧に覚えさせる。</p>	学力向上委員長と担任が連携して記録し、管理職に提出する。	全員合格。			
1 2 改善	パンダとゴ マちゃんか らの挑戦状 漢字テスト (校長と副 校長)	全児童	毎月1 回 (4 月・10 月・3月 を除く)	<p>【指導者体制】管理職・学習支援員・担任</p> <p>【取り組みのねらい・目的】5・6・7・9月は前学年の漢字復習、11・12・1・2月は現学年の漢字復習をして、月1回確認テストを行い、基礎学力の定着を図る。</p> <p>【使用教材】プリント教材</p>	全問合格した児童に毎回賞状を直接渡す。合格するまで再テストを実施し、賞状を渡す。	全員100% 目標			
1 3 改善	春休みだ よ！ パンダとゴ マちゃんか らの挑戦状	2学年以 上の全児 童	年度当 初	<p>【指導者体制】管理職・担任</p> <p>【取り組みのねらい・目的】春期休業中に、前学年度の復習を家庭で行わせる。前期のスタート直後にテストを実施し、定着度を確認する。</p> <p>【使用教材】学力調査問題</p>	正答率80%以上の児童に賞状を渡す。	令和2年度区学力調査で目標を達成する。			
1 4 改善	児童理解及 び学力向上 対策会議	全児童	年度当 初 5月 7月 10月 1月	<p>【指導者体制】管理職・学力向上委員長・担任</p> <p>【取り組みのねらい・目的】年度当初に、前担任から現担任へレクチャーを実施。調査結果については学年ごとに会議を実施し、個の学力状況の把握と分析及び対策を行う。1月には上学年から下学年担任に新年度に向けて、学力向上に関わるレクチャーを実施する。</p>	10月の再テスト	通過率90% 目標			

重点的な取組事項－２		保育園・幼稚園・中学校との連携			
今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保育園・幼稚園・中学校との連携を密にし、入学時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。		幼保中と連携して教育を進め、下記の２項目を達成する。			
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
花保中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力を高めるための研究授業の実施 ・小学校の「外国語活動、外国語科」から中学校につながるための指導交流の実施 ・「リーダーインミー」について共通指導化させる。 ・体験・交流活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒の学力定着度の情報交換 ○情報交換・調整会議（月１回の実施、年度末） ○授業研究の相互実施と研究協議会、研修会実施 <ul style="list-style-type: none"> ・年間８回（内容） 研究授業 ４回（小２回 中２回） ・６年生授業参観（小１回） ・研修会 全体会２回 ○生徒会学校説明会、合奏団交流 			
保育園・幼稚園との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑に小学校生活をスタートすることができ、４月中に小学校生活に慣れる。 ・学びにつながる生活習慣と園や学校での学習規律や生活規律を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校スタートカリキュラムに基づいた週案簿の作成 ○４月入学時実態調査の公表 ○連携保育園・幼稚園 <ul style="list-style-type: none"> ・卒園児状況参観（５月） ・校長講話（園保護者対象） ・交流研修会の実施 ・教員派遣・協議会の実施 ・プール体験（見学） ・給食体験・図書室体験 ・１年生との交流遊び ・運動会練習見学 ・学芸会への招待 ・本校での運動会・発表会の実施 			

重点的な取組事項－3		教師の指導力向上			
今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
教師一人一人の指導力の向上		教師一人一人の指導力の向上 (OJT ガイドラインに基づく教師一人一人の育成段階ごとの目標達成)			
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 都OJTガイドラインで求められている経験年数、職層に応じた目標の達成 基礎形成期の目標達成 職層に応じた職務の遂行 共通行動 	<ul style="list-style-type: none"> ○校長レクチャーの実施(年度当初) ○転入・新規採用教員研修の実施 ○自己申告書・面接の重視 ○学力対策レポートの作成と面接 ○若手教員養成塾の実施 10回以上 			
指導力・授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の基本の確立 ・統一された学びのスタイルの確立 ・管理職による授業評価 4段階B以上 全員達成 ・保護者授業参観アンケート 「改善を要する」 3%以下 ・学校評価項目 90% 	<ul style="list-style-type: none"> ○足立スタンダードの習得 算数・国語 ○研究授業「国語」の実施 ○学校及び学年共通指導 ○教科指導専門員の指導・助言 ○授業分析 板書撮影と逐語記録による授業分析 ○管理職の授業評価と指導・助言 随時 ○区小研への全員参加 			

重点的な取組事項－４		心の教育の充実				
今年度の成果目標		達成基準	実施結果		コメント・課題	達成度
児童一人一人の心の成長		学校評価による数値の向上				
目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果		コメント・課題	達成度
心の教育の充実 道徳授業の充実 いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ Q U 調査の 2 回目の調査結果での「学級生活満足群」数値割合の向上 ・ 学校評価で「道徳活動に力を注ぎ、公開授業を行ったり、子どもに思いやりの心や規範意識を育てたりしている。」90% 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全校朝会での講話と表彰 ○ Q U 調査の 2 回実施と分析 ○ 「リーダーインミー」教育の継続 ○ 道徳授業の充実 ○ 東京オリンピック・パラリンピックの参観 ○ 足立区オレンジプロジェクトへの参加 ○ 百人一首の暗誦と区大会への参加 ○ いじめ防止にかかわる児童会活動 ○ 東京都立花畑学園との交流 ○ 家庭と連携したサンクスウィークスの実施 ・ サンクスカードプレゼント ○ 児童の教育目標と達成するための手立て「17 (いいな) 宣言」の浸透 				
あいさつの徹底に取り組み	学校評価で「子どもが明るく楽しく生活する雰囲気になっている。」95%	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつキャンペーンの実施 ○ 保護者、地域への広報活動 ○ あいさつボランティアの活動 ○ 開かれた学校づくり協議会の協力 				
特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別活動のねらいをふまえた行事や集会、学級活動などを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の活躍の機会を増やし、結果を賞賛することで自己肯定感を高める。 				
無言清掃	無言清掃の定着	○ 強化週間の実施				